

---

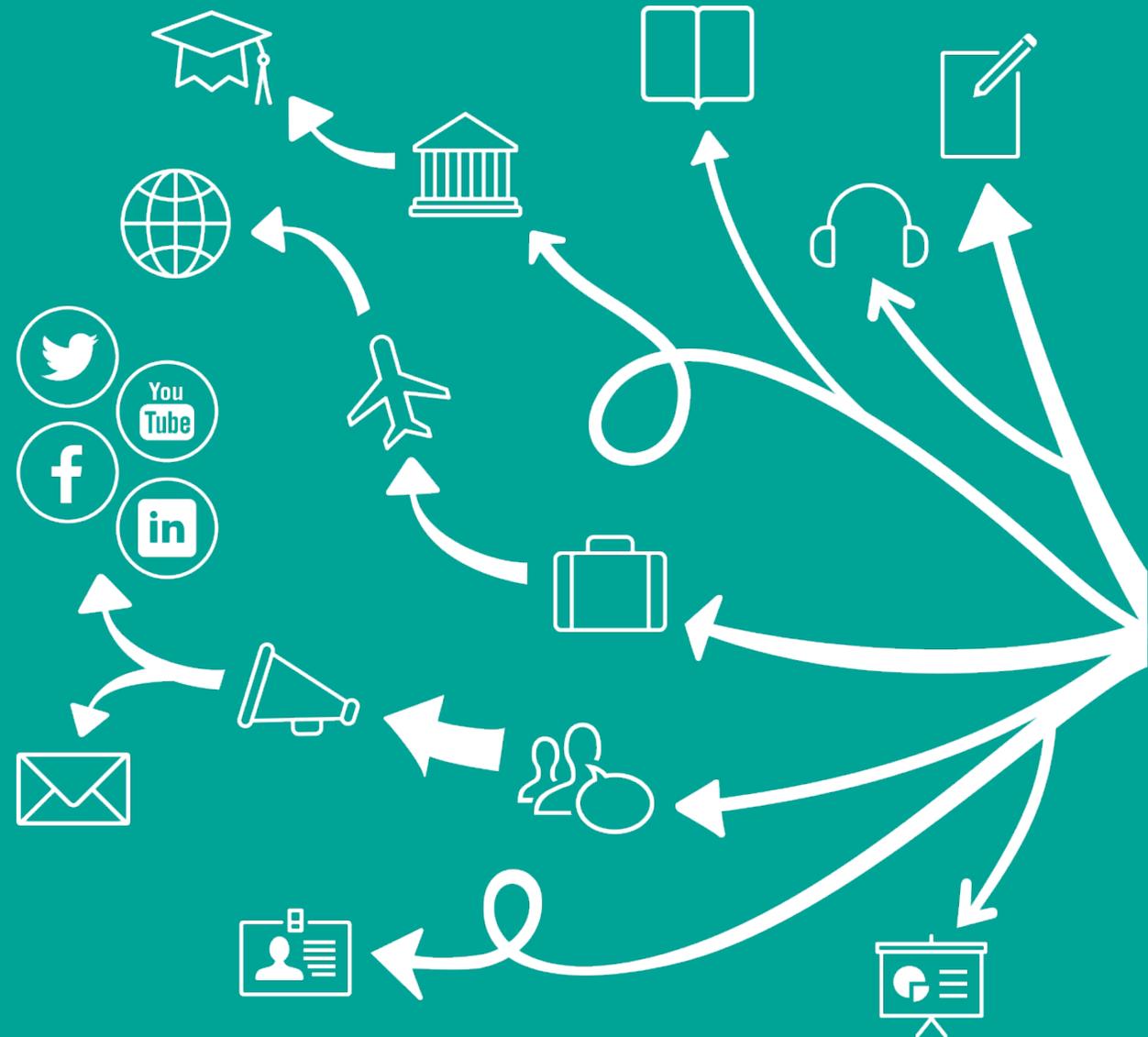
# Cambridge English

ケンブリッジ英語検定について

---

日本テスト学会  
シンポジウム  
「英語資格・検定試験の  
心理測定的側面」  
20 August 2017

Cambridge English Language Assessment  
ケンブリッジ大学英語検定機構  
日本統括オフィス



Cambridge English

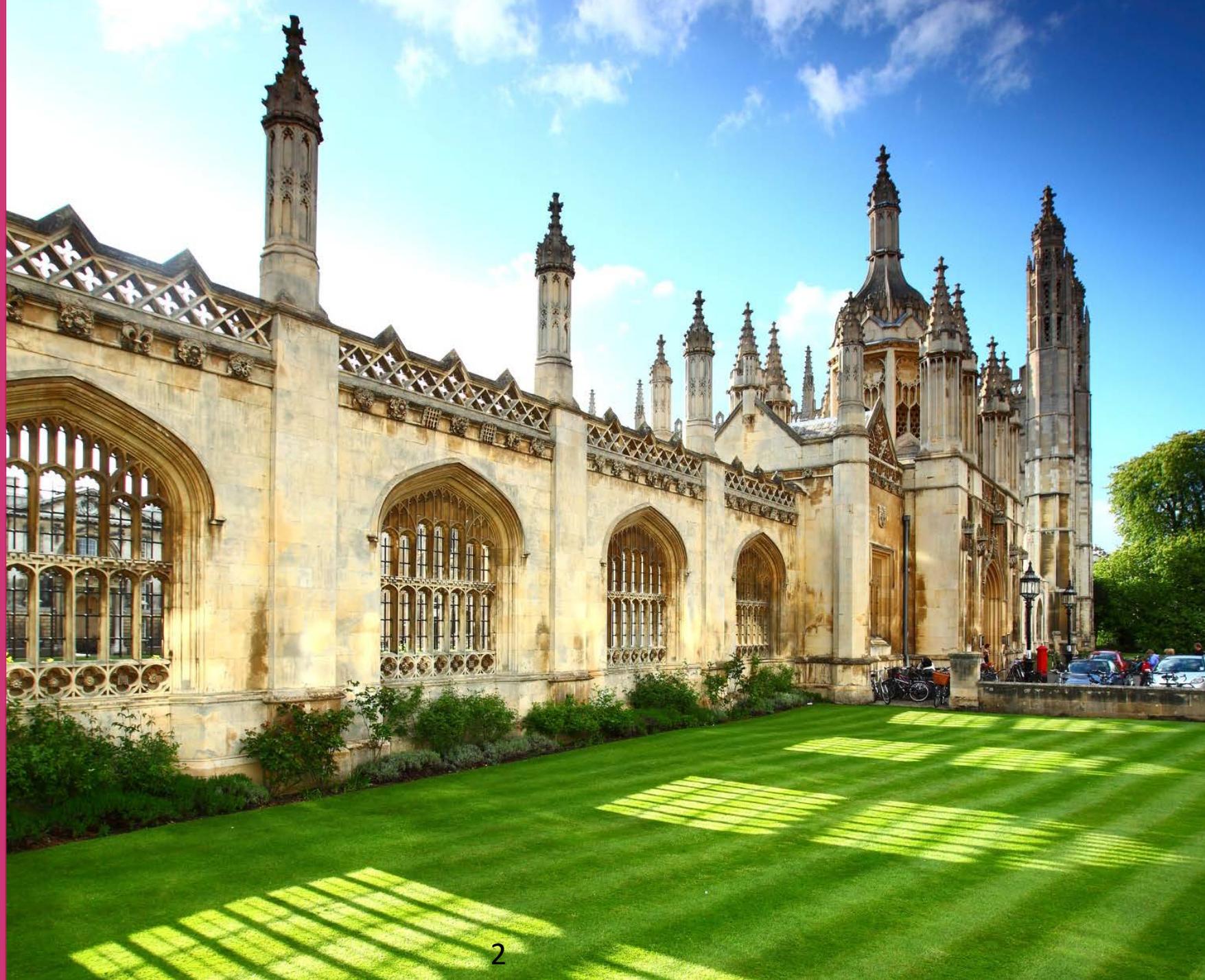
---

# Cambridge English Language Assessment

---

ケンブリッジ大学英語検定機構

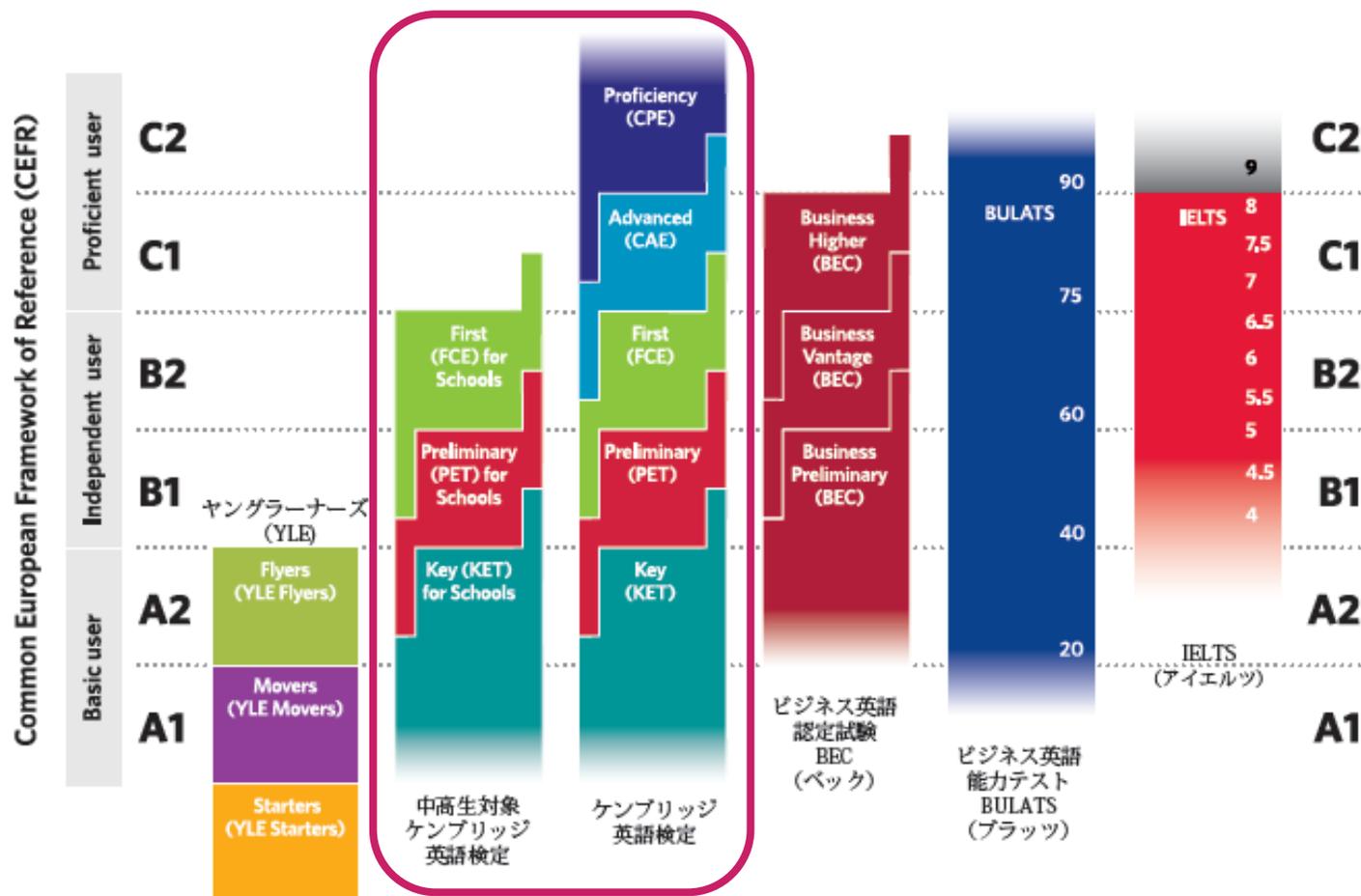
## テストの概要



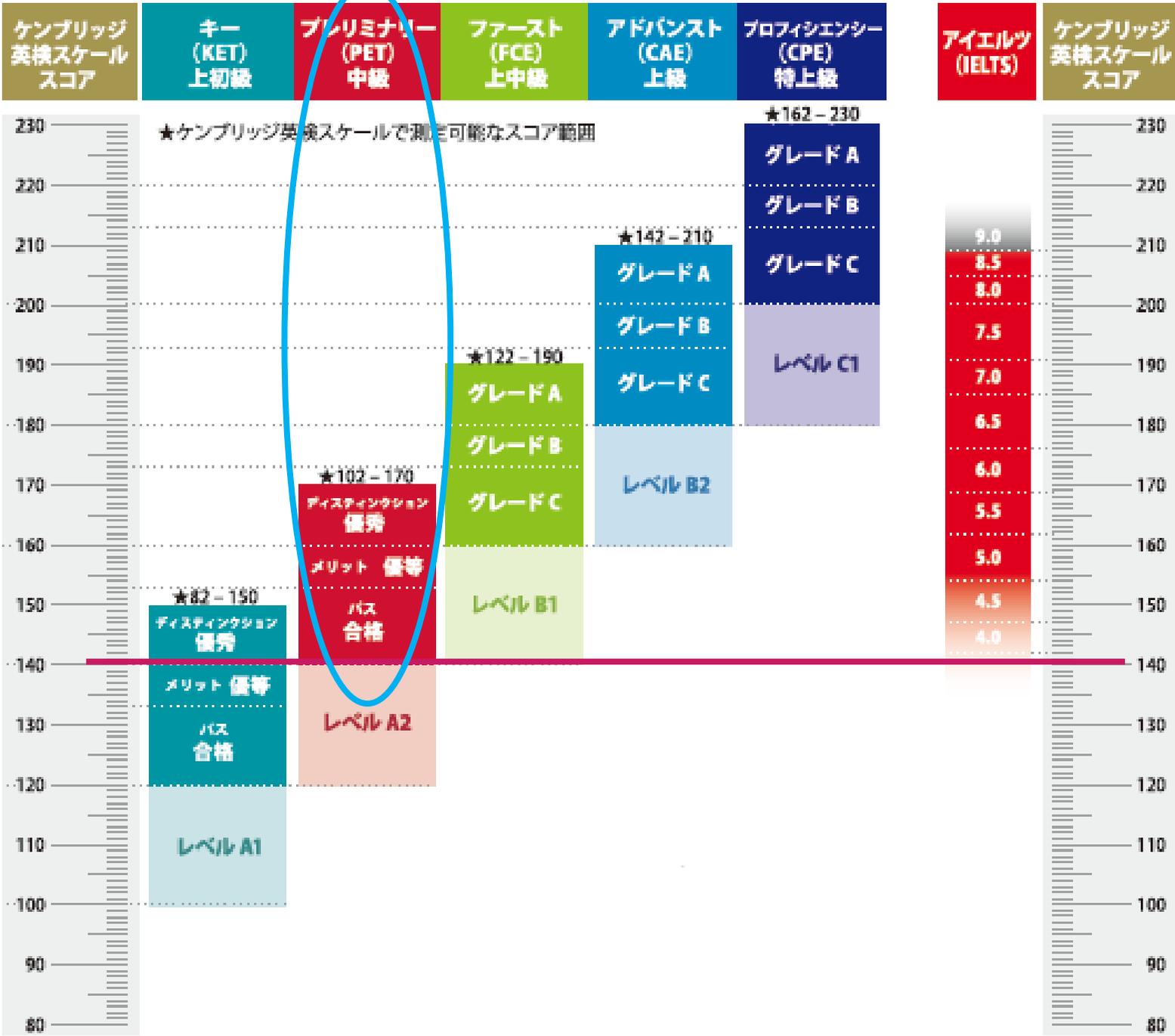
# Cambridge English

A range of exams to meet different needs

さまざまなニーズを満たすCEFRに準拠した英語運用能力試験



ヨーロッパ  
共通参照枠  
(CEFR)



アイエルツ (IELTS) のバンドスコアと  
ケンブリッジ英検のスケールスコア比較

アイエルツ (IELTS) バンド・スコア	ケンブリッジ英検スケールのスコア
9.0	209+
8.5	205-208
8.0	200-204
7.5	191-199
7.0	185-190
6.5	176-184
6.0	169-175
5.5	162-168
5.0	154-161
4.5	147-153
4.0	142-146

# Cambridge English レベル別試験

## 試験時間と受検料

### Cambridge English Key

¥ 9,720 ~

#### 問題用紙の種類

Reading & Writing  
リーディング&ライティング  
1時間 10分  
配点：全体の50%

約1時間50分

Listening リスニング  
約 30分  
配点：全体の25%

Speaking スピーキング  
約 8-10分  
受験者2名のペアで受ける  
対面式テスト  
配点：全体の25%

### Cambridge English Preliminary

¥11,880 ~

#### 問題用紙の種類

Reading & Writing  
リーディング&ライティング  
1時間 30分  
配点：全体の50%

約2時間12分

Listening リスニング  
約 30分  
配点：全体の25%

Speaking スピーキング  
約 10-12分  
受験者2名のペアで受ける  
対面式テスト  
配点：全体の25%

### Cambridge English First

¥19,980 ~

#### 問題用紙の種類

Reading リーディング &  
Use of English 文法・語彙  
1時間 15分  
配点：全体の40%

約3時間29分

Writing ライティング  
1時間 20分  
配点：全体の20%

Listening リスニング  
約 40分  
配点：全体の20%

Speaking スピーキング  
14分  
受験者2名のペアで受ける  
対面式テスト  
配点：全体の20%

#### 問題用紙の種類

Reading リーディング &  
Use of English 文法・語彙  
1時間 30分  
配点：全体の40%

¥22,140 ~

約3時間55分

Writing ライティング  
1時間 30分  
配点：全体の20%

Listening リスニング  
約 40分  
配点：全体の20%

Speaking スピーキング  
15分  
受験者2名のペアで受ける  
対面式テスト  
配点：全体の20%

### Cambridge English Advanced

#### 問題用紙の種類

Reading リーディング &  
Use of English 文法・語彙  
1時間 30分  
配点：全体の40%

パート 1-4  
文法・語彙問題

¥25,380 ~

パート 5-7  
読解問題

約3時間56分

Writing ライティング  
1時間 30分  
配点：全体の20%

Listening リスニング  
40分  
配点：全体の20%

Speaking スピーキング  
16分  
受験者2名のペアで受ける  
対面式テスト  
配点：全体の20%

### Cambridge English Proficiency

Cambridge English

# 実生活で英語を使ってコミュニケーション できるかを正確に測るテスト

試験名	Cambridge English
実施団体	ケンブリッジ大学英語検定機構
受験人数	国内人数非公表 ※全世界では約250万人
年間回数	各レベル・提供モード(PB/CB) により異なる 各10-16回程度 2017年 計195回 (世界共通)
会場数	2016年度; 12会場、 2018年度中に全47都道府県で実施計画中
成績表示方法	Key*/Preliminary*/First/Advanced/ Proficiency(CPE)の5レベル  *印にはfor Schools版もあるため、計8種 <b>CEFR**</b> 、 <b>スコア(80-230)**</b> 、 合格グレード併記 [**4技能別にも表示]
出題形式 実施方式	L, R, W: PB/CB <b>S: ペア面接</b>

(文部科学省に提出した資料より抜粋)

## ペア型面接によるスピーキングテスト

- 受検者2名を面接官1名、採点官1名で実施されるテスト
- 真のコミュニケーション力が分かる

## 学習指導要領との関係

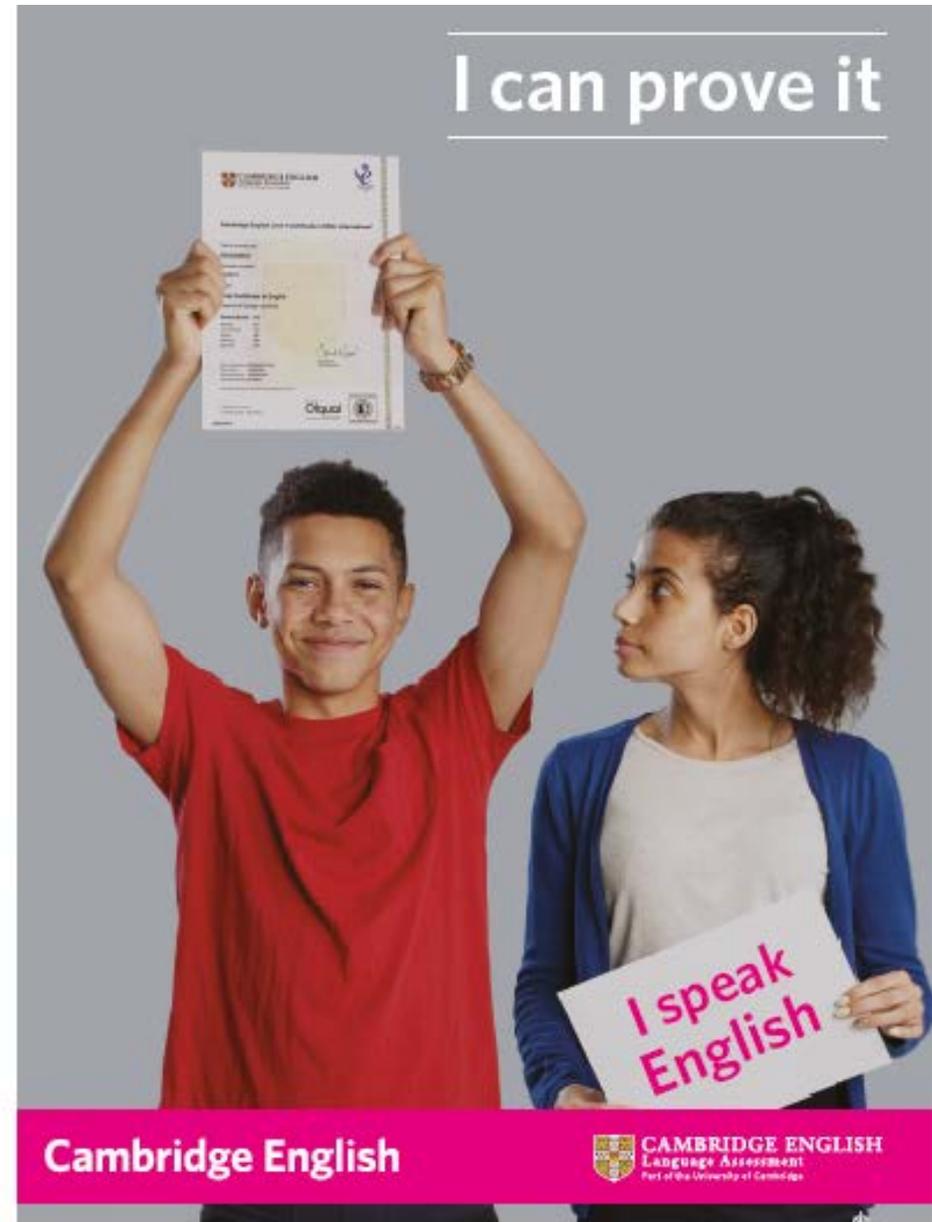
- Key (A2)の前身Pre-PETは日本の学習指導要領を参考に作られたテスト
- 学校の勉強との親和性
- センター試験にも対応

## 国際基準CEFRが分かるテスト

- CEFRの作成に貢献してきた歴史
- IELTSに直結するレベル別の試験で、IELTSバンドスコアと比較可能
- 他国の受検者と比較可能

## 最先端の研究—AI自動採点

- Write & Improve (ライト&インプルーブ)自動添削ツールが世界で大好評
- 4技能自動採点テストの開発





# Speaking test

## 受検者をペアにしてテストする対面式スピーキングテスト 例 (プレリミナリー：中級) CEFRレベルB1

内容 (例題)	所要時間 10～12分間
<p>パート1 試験官は者にお互いを理解するための質問をする 名前、名前の綴り、「学校で英語を勉強していますか?」「英語は好きですか?」等の質問を2名の受検者にする</p>	
<p>パート2 ある状況についてもう一人の受検者と会話する 転校するテニス部の友達に送るプレゼントとしてイラストのうちどれが最適かについて二人で相談して選ぶ⇒ (議論して決定) ⇒ <b>やり取り</b></p>	
<p>パート3 それぞれ異なる写真が与えられ、1分間相手に説明する それぞれに与えられた「音楽」に関する写真について長い時間(1分間)説明する。この間もう一人の受検者は反応する必要はなく、ただ聞いているだけ。⇒ <b>(スピーチ力、表現力) 発表力</b></p>	
<p>パート4 パート3のテーマについて議論しながら、再びもう一人の受検者と意見交換 2つの写真が「音楽を楽しむ人々」であったことから発展して、「音楽を楽しむ時、どのようなことをしますか」「嫌いな音楽は?」等、試験官が質問をする。それについて自らの経験を交えペアで話し合う。</p>	

# Cambridge English Preliminary

動画をご覧ください



<https://youtu.be/QwIBZc9MrJA>

# 成績表とCertificate(認定書)

Cambridge English  
**Preliminary**

**CAMBRIDGE ENGLISH**  
Language Assessment  
Part of the University of Cambridge

Reference No.  
15BGB9615003  
To be quoted on all Correspondence

## Preliminary English Test

Statement of Results

Candidate name: **An Example**      Session: **February 2016**

Place of entry: **Cambridge**

Result	Overall Score	CEFR Level
<b>Pass with Merit</b>	<b>168</b>	<b>B1</b>

CEFR Level	Cambridge English Scale	Certified Results	Reading	Writing	Listening	Speaking
<b>B2</b>	170	Distinction	160		155	158
<b>B1</b>	160	Merit		159		
	150	Pass				
<b>A2</b>	140	Level A2				

The Preliminary English Test (PET) is an examination targeted at Level B1 in the Council of Europe's Common European Framework of Reference.

Candidates achieving Pass with Distinction (between 160 and 170 on the Cambridge English Scale) receive the Preliminary English Test certificate stating that they have demonstrated ability at Level B2.

Candidates achieving Pass with Merit or Pass (between 140 and 159 on the Cambridge English Scale) receive the Preliminary English Test certificate at Level B1.

Candidates whose performance is below Level B1, but falls within Level A2 (between 120 and 139 on the Cambridge English Scale), receive a Cambridge English certificate stating that they have demonstrated ability at Level A2.

Cambridge English Language Assessment examination results can be quickly and securely verified online at: [www.cambridgeenglish.org/verify](http://www.cambridgeenglish.org/verify)

**THIS IS NOT A CERTIFICATE**  
Cambridge English Language Assessment reserves the right to amend the information given before the issue of certificates to successful candidates.

Results	Score
Pass with Distinction	160 – 170
Pass with Merit	153 – 159
Pass	140 – 152
Level A2	120 – 139

Candidates taking the Preliminary English Test scoring between 102 and 119 on the Cambridge English Scale do not receive a result, CEFR level or certificate.

Cambridge English Scale scores below 102 are not reported for the Preliminary English Test.

Other

X - the candidate was absent from part of the examination  
Z - the candidate was absent from all parts of the examination  
Pending - a result cannot be issued at present, but will follow in due course  
Withheld - the candidate should contact their centre for information  
Co-opt - the candidate was not registered to sit this part of the examination

**CAMBRIDGE ENGLISH**  
Language Assessment  
Part of the University of Cambridge

THE QUALITY STANDARD FOR EXCELLENCE  
1993

**Cambridge English Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 3) (Preliminary)\***

This is to certify that  
**GBDUMMY PREGRADINGFIVE**  
has been awarded  
**Pass with Merit**  
in the  
**Preliminary English Test**  
Council of Europe Level B1

Overall Score	155
Reading	157
Writing	157
Listening	152
Speaking	155

Date of Examination: **JUNE (A) 2016**  
Place of Entry: **CAMBRIDGE**  
Reference Number: **166GB9615005**  
Accreditation Number: **500/2414/0**

*Saul Nassé*  
Saul Nassé  
Chief Executive

\*The level refers to the UK National Qualifications Framework

Regulated by  
**Ofqual**  
Approved educational provider for the qualification

Date of Issue: 21/07/16  
Certificate Number: 005382507

00038064

Cambridge English Language Assessment  
Cambridge University  
Cambridge, UK

英国資格指標(NQF)レベル

合格のグレード

CEFRレベル

全体評価、および  
各スキル別評価  
(ケンブリッジ英語検定  
スケールスコアで表示)

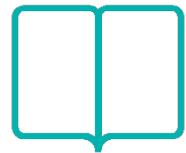
**Cambridge English**

# 採点の際の 統計的処理 の方法

## ■ 集計と判定



Listening



Reading



Speaking test



Writing

正答か誤答か  
客観的採点  
Marking objectively  
scored tests  
短答の記述あり

パフォーマンス異常のモニタリング  
個人もしくは団体受検者に対して、  
スコアや解答の不自然なパターン  
が見られないかを識別するため、  
成績結果の発表に先立ち、全ての  
試験で自動統計分析を実施

ケンブリッジ認定の試験官が採点

新SE候補者のリクルート、登録

(オンラインで自習) 事前トレーニング

(対面式) 試験官養成トレーニング

(オンライン) 認証トレーニング および (対面式  
もしくはメール・電話による) 認証トレーニング、  
認定後も1年に1回実施し、  
2年に1回モニタリングを受ける

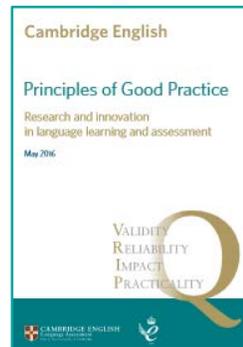
ケンブリッジ認定の採点官が採点

- 高機能オンライン評価システム:  
採点スキルを認証する質保証シ  
ステム
- プロフェッショナルな試験官チ  
ーム編成: Team Leaders<Principal  
Examiners
- Cambridgeオンライン評価者シ  
ステム - システムを通じて採点官  
をモニタリング
- オンライン試験官管理システム

Cambridge English

# アイテムバンキング、プレテスト、アンカーリング(共通テスト項目の活用) カリブレーション(難度の調整)

テストのタスクや素材は、安全な電子アイテムバンクから選び出し、実施する試験ごとに異なる内容の問題が作成される。アイテムバンクは常に新しい素材で更新。



[www.cambridgeenglish.org](http://www.cambridgeenglish.org)

Cambridge English > Research > Quality and accountability  
よりダウンロードできます

[www.cambridgeenglish.org/images/22695-principles-of-good-practice.pdf](http://www.cambridgeenglish.org/images/22695-principles-of-good-practice.pdf)

作成された試験問題は、**トライアル**(スピーキングとライティングに関するテスト)や**プレテスト**(リーディング、文法・語彙、リスニングのテスト)などを通じて実際の受検者を対象に実施

トライアルやプレテストの実施後には、受検者の結果を統計的に分析し、専門家のフィードバックを参考に、各設問を世界基準に照らして正しいレベルに調整しながら、試験全体を確実に正確で公正なものになるように設定。

※テストの内容がどの国の受験者にとっても適切で、国や文化、あるいは、男女で不利益が生じないようにするための方法でもある

プレテストとトライアルの後で、基準を満たすことが確認されたテスト問題は、ケンブリッジのアイテムバンクに追加。

**プレテストとアンカーリング、カリブレーション(調整):**

一つの尺度上にデータを位置付ける方法で、アンカーリングによって達成できる。難度が既に分かっている既存のタスク(アンカー問題)は各アイテムが確実にアイテムバンクと結び付けられるために新しいタスクとともに処理される。事実、ラッシュ・モデルにより、プレテストに参加した受検者の能力判定はアンカー問題に対してどのようなパフォーマンスであったかに基づいて行える。

アイテムバンキングにより、バージョンが異なっても必ず同じ難度基準になるように作問されている



弊機関のアイテムバンクは:

- 安全な試験問題のデータベース
- それぞれ内容や難度についての詳細情報とともに保存



## Speaking test

# S&W: B1レベルの評価スケールとその内容

4つの評価スケールで採点:

「Grammar and Vocabulary: 文法と語彙」 使用語彙の適切性、文法上のコントロール等

「Discourse Management: 談話管理」タスクに合わせ長短の答えを使い分けているか。無関係なことを話していないか。ためらいの表現を多用せず、流暢に話すことができるか。

「Pronunciation: 発音」イギリス英語を話す必要はなく、明瞭に話しているかが大切。正しい部分に強勢をおき、個々の音を正確に発音しているか。

「Interactive Communication: 双方向コミュニケーション」ペアを組む受験者と効果的に、うまく意思疎通できているか。会話を始め、相手の発言を聞き、それをベースに会話を続けるなど、**積極的な会話の展開に努めているか。**



## Writing test

4つの項目について採点して評価

「Content: 内容」指示通りタスクを完了しているか

「Communicative Achievement: コミュニケーションの達成度」 そのタスクに適したライティングになっているか、(タスクが求める)特定の状況に適した言語の使用域であるか。

「Organisation: 構成」論理的に文章が並び構成されているか。

「Language: ことば」語彙と文法について、求められるレベル相当の語彙の豊富さ、正確性を備えているか。

それぞれの項目について評価し、その結果を「0~5」で段階評価

Cambridge English

# CEFRとの 関連付けの方法

ケンブリッジ英語検定と  
CEFRとの関係：  
4つの観点から説明可能

歴史的観点  
概念的観点  
実証的観点  
進化的観点



欧州言語テスト協会



欧州評議会

『ALTE Can Do プロジェクト』(Jones 2001, 2002)は、ケンブリッジが自ら開発した英語検定の5つのレベルが、CEFRの6つのレベル上どこに置かれるかを導き出すために使われた**実証的アプローチ**の一つ

ケンブリッジは欧州評議会の、言語テストをCEFRに関連付けるための**マニュアル** "Manual Relating Language Examinations to the CEFR" を著わし、トライアル実施の支援を実施。(Figueras et al 2005)。マニュアルでは、次の3つの手続きをベースに、言語テストをCEFRに関連付ける過程を紹介：

- テスト内容・目的と CEFRの整合性評価  
Specification of the content and purpose of an examination
- CEFRレベルの判断の標準化  
Standardisation of interpretation of CEFR levels
- 経験的妥当化の研究  
Empirical validation studies

# 歴史的観点から： Cambridge English と CEFR

1913	<ul style="list-style-type: none"><li>Cambridge Proficiency Exam (CPE) launched - a test which played a large role in the development of level C2 of the CEFR.</li></ul>
1939	<ul style="list-style-type: none"><li>Lower Certificate (now <i>Cambridge English: First</i> or FCE) launched - a test set at the level now associated with Level B2 of the CEFR.</li></ul>
1980-1990	<ul style="list-style-type: none"><li>Cambridge, along with British Council, BBC English and others provides support for revising Threshold and Waystage resulting in the revised PET exam (B1 level) and a new KET exam (A2) in the early 1990s.</li></ul>
1990-2001	<ul style="list-style-type: none"><li>The Association of Language Testers in Europe (ALTE) is set up in 1990 and develops the five-level ALTE Framework.</li><li>1991 Rüsclikon intergovernmental symposium - Dr Peter Hargreaves (Cambridge ESOL) speaks of 'natural levels'. Advisory Group set up including Dr Michael Milanovic from Cambridge ESOL.</li><li><u>Cambridge introduced item-banking and calibration systems. IELTS is calibrated using the same methods as the other Cambridge examinations.</u></li><li>The Business English Certificates (BEC) developed in the 1990s and their levels are aligned to the CEFR in the same way as the other exams.</li><li><u>Cambridge ESOL and ALTE conduct several studies which result in the ALTE Can Do Project (1998-2000), and the alignment of the Cambridge English exams. ALTE members adopt the CEFR levels.</u></li></ul>

1990-2001年

ケンブリッジ大学英語検定機構はアイテムバンキングおよびカリブレーション制を導入

IELTSも、他のケンブリッジ英語検定と同じ方法でカリブレーション(難度の調整)を行っている

Cambridge English

---

“ケンブリッジ英語検定は  
CEFRを具現化した試験であり、  
CEFRは部分的にはありませんが、  
ケンブリッジ英語検定  
をベースに設計されました”

---

ケンブリッジ大学英語検定機構 本部  
Dr Fiona Barker  
Principal Research & Validation Manager

*There is a difference between having a very good idea of what the relationship is and confirming it. Cambridge ESOL is an exception, because there is a relationship between the levels in the CEF[R] and the levels of the Cambridge ESOL exams. (North 2006)*



(試験と参照枠の関係に関して試験委員会による申し立て内容について  
検証し始めたところですが)



**Dr Brian North**  
Eurocentres Foundation,  
Switzerland

「関係が何であるかということをよく理解しているということと、それを確かにするということは、別のことです。ケンブリッジ大学英語検定機構は、CEF (R) (ヨーロッパ共通参照枠) のレベルと ケンブリッジ英検各試験のレベルの間に相関関係があるため、例外とされます。」

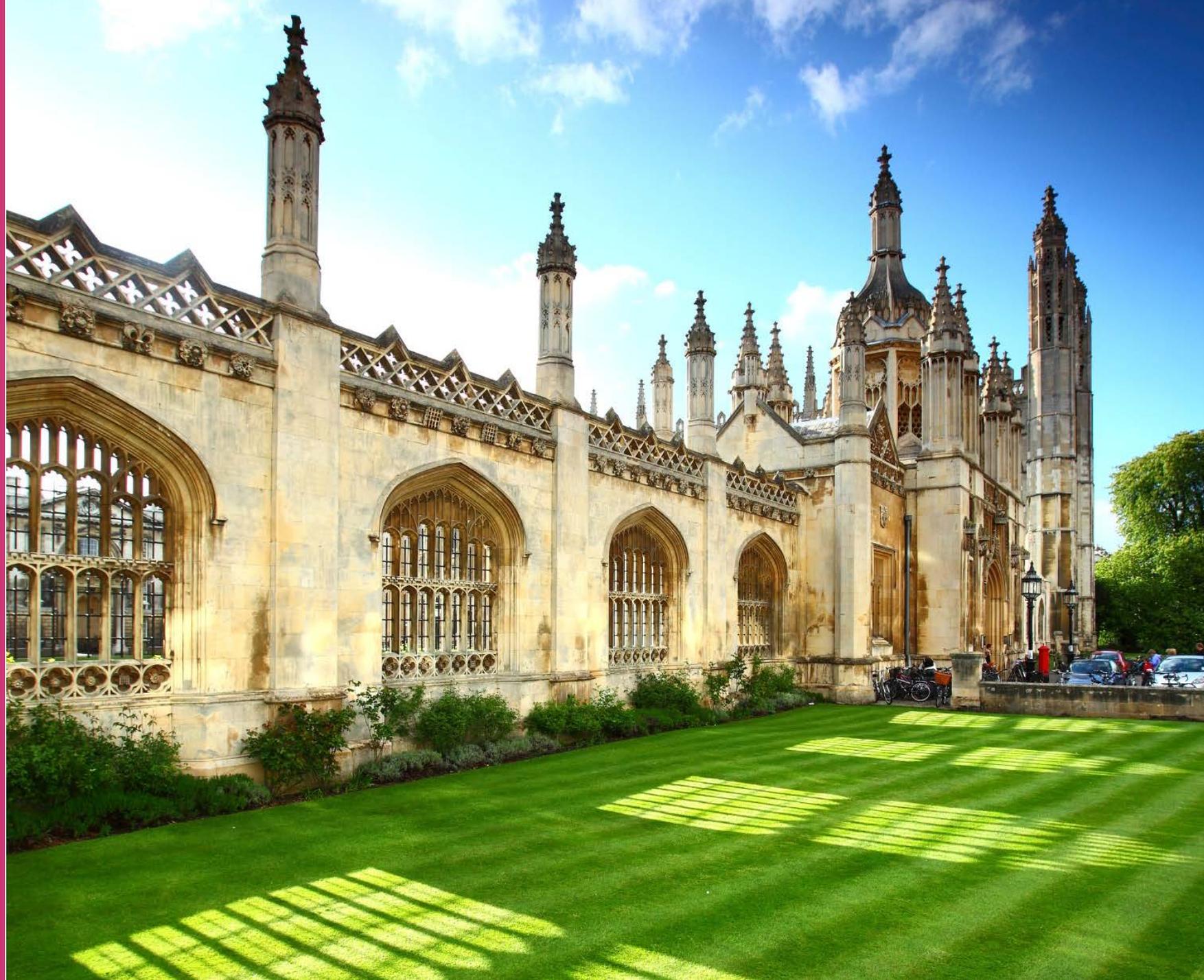
( CEFR開発者の一人、Brian North博士とのインタビュー、  
ELT News、2006年2月)

---

# 大学入試として 利用する場合の利点 と問題点

---

- 教育機関が出願書類を審査する際、試験の「品質」「一貫性」「セキュリティ」はとても重要な要素
- 試験とサービスを設計・開発・提供するためのケンブリッジのシステムおよびプロセスは、ISO 9001-2008 を満たすものとして認定済
- 国際比較が可能



---

# Thank you

---

ケンブリッジ大学英語検定機構  
試験開発部門 日本統括マネージャー

E-mail: [InfoJapan@cambridgeenglishreps.org](mailto:InfoJapan@cambridgeenglishreps.org)